

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 教える者と学ぶ者との関係性
FD推進委員会委員長
学長 長谷部 八朗
- 「社会への扉を開く実習科目」
文学部准教授 深澤 弘樹
- 平成 29 年度
新規採用教員オリエンテーション
- 平成 28 年度活動報告
- FD推進委員会の今後の活動予定

教える者と学ぶ者との関係性

駒澤大学FD推進委員会委員長

学長 長谷部 八朗

私たち教育に携わる者は、自らの授業について「教育目標」を設定し、「授業内容」を精査し、「授業計画」を立て、「授業方法」を学生に合わせ、「授業実践」を行い、翌年のための「反省」をし、それを翌年度の授業に「反映」させてきました。

授業改善の努力は教員個々に委ねられていますが、概して、学生の関心を惹起するような内容で授業に臨めば、学生の関心を高めることはできるものの、学問の体系的性への配慮が欠けるきらいがないわけではありません。だからといって体系的講義に終始すれば、学生にとっては面白みに欠け、また実用性に欠ける懸念が生じます。

そもそも卒業後の学生を受け入れる企業・社会は、社会展開の速さに対応できる「即戦力教育」を大学に求めています。具体的には情報技術力、実用語学力、交渉力、プレゼン力、判断力などの機能や技術を中心としたものが考えられます。

12年前、このような要求に対応すべく、授業内容・方法を改善し向上させるための「組織的対応」が、中央教育審議会から、「我が国の高等教育の将来像」の名のもと、FDとして提唱されました。

そこでは学生による授業評価に始まり、授業内容や方法に関してはカリキュラム・ポリシー（CP）、学位や教育の質保証についてはディプロマ・ポリシー（DP）として、目標の「組織的」自己認識と共通理解が謳われ、そのための具体的な計画がさまざまな形で求められました。本学も組織的対応を積極的に行なっていますが、同時に、「改革」がどこまで十全に行われているかを常に検証する必要もありそうです。

教育の基本は、教える者と学ぶ者が対等という人間関係の上に立ち、共に真理を探究するところにあると、私は思っています。それは「真のゆとりと緊張」がなければできません。真理を探究する学問と即戦力としての技術の習得という、一見、相反する命題を自己のうちに統合することには大きな困難が伴います。しかし立ち止まることは出来ません。むしろ求め続けることに意味があると思います。

そして教える者と学ぶ者が「共学」できる場を創っていくことが、大学の未来をより開拓することになると信じます。

連載企画：よりよい教育のために

「社会への扉を開く実習科目」

文学部准教授

深澤 弘樹

私が所属している社会学科社会学専攻は駒澤大学のなかでは小規模であり、学生と教員との距離が近いのが特徴である。64 人の定員に対して 7 人の教員がおり、演習は教員一人あたり 10 人前後と、目が行き届きやすくきめ細かな指導が可能となっている。こうした少人数の教育環境のもと、学生が調査に取り組み、報告書や論文を仕上げるのも本専攻ならではといえる。

本専攻で奨励しているものに社会調査士資格の取得がある。社会調査士とは、「一般社団法人 社会調査協会」が認定するもので、世論や市場調査などに携わる「調査の専門家」の養成を目的としている。資格取得に際しては、協会から認定された科目を学生が履修し単位取得することで資格が得られるしくみとなっている。

学生は調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を学習することになるが、単位認定の総仕上げの科目（G 科目）には、実習系の科目が位置付けられ、本専攻では「社会調査実習（量的・質的 1 クラスずつ）」が該当する。そして、本年度から新たに 3 年次ゼミも科目申請することになった。これで、「社会調査実習」を履修しなくてもゼミで調査を経験すれば資格取得が可能になり、学生にとっても利益になると考えている。

私自身はマス・コミュニケーション論が専門であるが、これまで全国の放送局で現場の声を聞いてきた。指導するゼミ生もメディア組織やスポーツクラブなどに出向いて調査を行ってきた。

調査を通じて学生たちは社会との接点を持つ。調査の技法を学ぶことも大切だが、同時に、社会人に話を聞かせてもらえることも学生たちにとって大きな刺激となる。電話のかけ方、メールをどう書くか、上手にコミュニケーションを取り、話を聞き出すには何が必要か……。学生たちは様々な困難にぶつかり悪戦苦闘しながら人との関係を築いて最終的に論

文を仕上げていく。これらは絶好のキャリア教育の場となっている。実習やゼミ活動を通して社会を知り、成長する学生の姿を見ることができる。

外部の方々に失礼がないか気を遣うために教員の負担も大きいですが、学生がそこから得るものは座学の授業以上のものがある。そして、教員の力量も試される。調査自体は学生に任せる部分が大きいため、学生に的確なアドバイスを与えることが必要となる。私自身も試行錯誤が続いているが、こうした指導を通して「よき社会人」への橋渡しをしたいと思っている。

 平成 29 年度新規採用教員オリエンテーション

本年度も 4 月 1 日に今年度より新たにご出講いただく先生方を対象としたオリエンテーションを開催し、専任教員 11 名、非常勤教員 57 名の計 68 名の先生方にご出席いただきました。

オリエンテーション第一部では長谷部八朗学長より本学の建学の理念について、中野達哉教務部長より本学の教育方針等について、F D 推進委員会小委員会前委員長の飯塚大展先生（仏教学部教授）より本学の F D 活動について説明をいただき、事務局からは、総合情報センター（「KOMAnet（コマネット）」、「ユーザー I D」、「YeStudy（e-learning）」等の利用について）、図書館（「図書館の利用案内について」）、教務部（「授業運営に関係する説明」）が説明を行い、第一部終了後、希望された先生方を講師控室および A V 教場にご案内しました。

第二部では、専任教員を対象に教務部から公的研究費、教員教育研究費等に関する説明を行いました。

オリエンテーションについて、ご意見、ご提案等ございましたら事務局までお申し出ください。

1. 開催日時

平成 29 年 4 月 1 日（土）10：40～13：00

2. 出席者数

68 名（案内状発送 106 名）

3. オリエンテーション次第

- ・学長挨拶
- ・教務部長挨拶
- ・F D 推進委員会小委員会前委員長挨拶

- ・大学案内（教務部・総合情報センター・図書館）終了後、希望者を講師控室、A V 教場に案内した。



(オリエンテーションの様子)

平成 28 年度 F D 推進委員会及び小委員会の活動報告

平成 28 年

4 月

- ・「新規採用教員オリエンテーション」を開催
- ・第 1 回 F D 推進委員会及び小委員会を開催

6 月

- ・第 2 回 F D 推進委員会小委員会を開催
- ・2016 年度「学生による授業アンケート」(前期)の実施

- ・FD NEWSLETTER 第 47 号を発行

7 月

- ・第 2 回 F D 推進委員会（臨時）を開催
- ・第 3 回 F D 推進委員会小委員会を開催
- ・第 4 回 F D 推進委員会小委員会（臨時）を開催

9 月

- ・平成 28 年度第 1 回 F D 研修会を実施
- ・FD NEWSLETTER 第 48 号を発行

10 月

- ・第 5 回 F D 推進委員会小委員会を開催

11 月

- ・第 3 回 F D 推進委員会を開催
- ・2016 年度「学生による授業アンケート」(後期)の実施

- ・平成 28 年度公開授業の実施（12 月 10 日まで）
12 月

- ・FD NEWSLETTER 第 49 号を発行

平成 29 年

1 月

- ・第 4 回 F D 推進委員会（臨時）を開催
- ・第 6 回 F D 推進委員会小委員会を開催

2 月

- ・平成 28 年度第 2 回 F D 研修会を実施
- ・第 7 回 F D 推進委員会小委員会を開催
- ・英語による教授法の実践研修会を開催（グローバル化推進委員会との共催）

3 月

- ・第 5 回 F D 推進委員会を開催
- ・FD NEWSLETTER 第 50 号を発行
- ・平成 28 年度『F D 活動報告書』を発行

F D 推進委員会の今後の活動予定

- 平成 29 年度第 3 回 F D 推進委員会小委員会
平成 29 年 7 月 25 日（火）14 : 00 ～

※F D 活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。



～2017 年度「学生による授業アンケート」
(後期) 実施のお知らせ～

実施期間：平成 29 年 11 月 6 日 (月) ～25 日 (土)

対象科目：全科目対象 (集中講義科目、演習科目、
受講生が 20 名未満の科目は除く)

※WEB によるアンケートを実施しています(PC、
スマートフォン、携帯電話、タブレット等を使用
して回答されます)。



編集後記

今年度最初の『FD NEWSLETTER』(第 51 号)をここ
にお届け致します。

4 月より学長にご就任の長谷部八朗先生に巻頭言
を賜りました。激務のさなかにご執筆頂きましたこと
に御礼申し上げます。

また連載企画「よりよい教育のために」につつま
しては文学部社会学科准教授の深澤弘樹先生にご寄
稿賜りました。こころより御礼申し上げます。

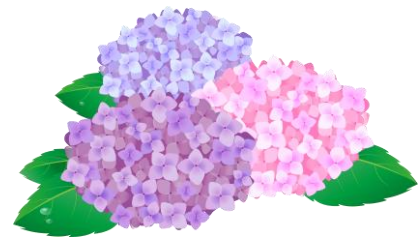
さらに、新規採用教員オリエンテーション等、本
学における着実な FD 活動についての報告を掲載し
ております。

平成 11 年 9 月 14 日、大学設置基準において FD
活動の努力義務が規定されました。それまで一部大
学の一部有志によって進められてきた FD 活動が全
大学に波及しました。試みに 10 年前の本学 FD 推進
委員会小委員会の議事録や関係資料を参照しますと、
当時議論されていた事柄の中には今日の本学におい
て、まったく顧みられなくなった問題、当時予想で
きなかつたほど進展している問題、形を変えて推進
されている問題、FD 活動とは捉えられなくなり別の

会議体で議論され規程案が提出されている問題等が
あり、本学の FD 活動が一定の方向に向かい力強く推
し進められていることが分かります。FD 活動の後退
は許されません、前進するのみですが、過去の議論
の経緯を振り返ることによって、今踏み出そうとす
る一步の意味が明確になるように思われます。この
ニューズレターは本学の FD 活動の「今」をお伝えす
るものですが、これにまでに発行された 50 号の蓄積
はわれわれの来し方を映し出す重要な資料となるで
しょう。編集に際しての感慨を述べて後記と致しま
す。

なお末筆ながら、本号も教務部教育支援係の絶大
なご支援なしには発行できなかったことを申し上げ、
ここに御礼申し上げます。

(川上富雄・岩永正晴)



【タイトル横の写真は

平成 29 年度新規採用教員オリエンテーションの様子】

FD NEWSLETTER Jun. 2017 第 51 号

発行日：2017 年 6 月 30 日

発行者：駒澤大学 F D 推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

Tel 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)